

表 シカゴ連銀経済報告(2019年9月4日公表)

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用はわずかに(slightly)拡大賃金はわずかに上昇	企業からは、今後1年間の雇用は左記と同様のペースで拡大するとの声が聞かれた。特に高度技術職を雇用する企業の増加が目立った一方で、引き続き人材市場は厳しく、全てのスキルレベルで人材が不足しているという。多くの企業から福利厚生関係のコストが上昇しているという声が聞かれた。
物価	小売価格はわずかに上昇、生産者価格はわずかに上昇	小売価格において今後予定されている対中追加関税の影響を感じるようになるのは2020年初頭以降だろうと予測する声がある。一方で、一部の小売店は追加関税賦課が始まってからの急激な価格への転嫁を避けるため、既に小売価格を漸増させているという報告もあった。
個人消費	控えめに(modestly)増加	ライトトラック新車および中古車の売り上げは控えめに増加した。ショッピングモールやデパートは厳しい状況が続いている一方、学校の新学期開始に合わせたセールではディスカウントストアや大型小売店で売れ行きが好調。
企業支出	わずかに上昇	設備投資はわずかに上昇し、今後1年間は同様のペースを維持するとみられる。主な設備投資は工業設備やIT設備の更新にかかるもので、経済・通商の不確実性が増している現在の局面においては、投資を控え、サプライチェーンの多様化の取り組みに拍車がかかっている。
建設と不動産	ほとんど変化なし	住宅建築は大きな動きがないものの、非住居建築はわずかに拡大した。住宅・非住宅建築の着工率は、資材の高騰により抑えられている。
製造業	ほとんど変化なし	企業は良い活動状態を保っている。特殊金属分野は航空宇宙分野からの需要が上がったものの、自動車および建設分野での需要の低下を補填(ほてん)するほどではなく、全体としてはわずかに需要が落ちた。大型トラックの受注は企業の予想に反して伸びた。
金融	ほとんど変化なし	金融市場関係者からは、株価の下落と債権価格の上昇は、今後の経済の不透明感に起因すると報告された。
農業	農家収入改善の見込みが出てきたものの、厳しい状況	トウモロコシおよび大豆の予測生産量は上昇しているものの、依然として前年比を下回っており、品質も安定していない。穀物は春の大雨で作付けが遅れた影響で、例年より約1カ月生育が遅れている。トウモロコシと大豆の価格は下落している。貿易摩擦の影響緩和のための政府による追加支援により農家収入が改善すると見込まれている。

(出所)シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成